

第19週の発生動向 (2008/5/5~2008/5/11)

1. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内において2007年第45週から、むつ保健所管内では、2007年第48週から**警報**が続いています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、東地方+青森市保健所管内において第8週から、**警報**が続いています。

第19週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点
(85) インフルエンザ	3	0.21	2	0.13									5	0.08	-8	3	1.50		
(74) RSウイルス感染症															-4				
(75) 咽頭結膜熱	4	0.44	6	0.67					4	0.67	3	0.75	17	0.40	-2			4	0.50
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22	2.44	13	1.44	5	0.56	5	1.00	5	0.83	4	1.00	54	1.29	-18			22	2.75
(77) 感染性胃腸炎	49	5.44	44	4.89	7	0.78	13	2.60	12	2.00	41	10.25	166	3.95	-71	6	6.00	43	5.38
(78) 水痘	14	1.56	29	3.22	10	1.11	16	3.20	7	1.17	1	0.25	77	1.83	27	2	2.00	12	1.50
(79) 手足口病					1	0.11							1	0.02	1				
(80) 伝染性紅斑	2	0.22											2	0.05	-3			2	0.25
(81) 突発性発しん	8	0.89	2	0.22	2	0.22	2	0.40	4	0.67	3	0.75	21	0.50	5	1	1.00	7	0.88
(82) 百日咳			1	0.11									1	0.02	1				
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0			
(83) ヘルパンギーナ	1	0.11	1	0.11									2	0.05	-1			1	0.13
(73) 麻しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0			
(84) 流行性耳下腺炎	2	0.22					1	0.20	1	0.17	2	0.50	6	0.14	0			2	0.25
(86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	6	3.00	1	0.33	1	0.50	1	1.00					9	0.82	6			6	3.00
(95) マイコプラズマ肺炎					9	9.00					3	3.00	12	2.00	0				

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (小児科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	12	8	4	2
合計	65	42	23	11

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (注:届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前3人、八戸2人 (20年計:173人)
- (69) 破傷風(五類全数把握疾患): 弘前1人 (20年計: 1人)
- (73) 麻しん(五類全数把握疾患): 弘前1人 (20年計: 45人)

感染症の窓

オウム病

オウム病は、**オウム病クラミジア *Chlamydophila psittaci*** を病原体とする呼吸器疾患です。本来は鳥の病気ですが、鳥が感染しても症状がなく経過する場合があります、ヒトへの感染は病鳥のほか、保菌している鳥との接触によって起こります。国内においては、オウム、ハト、セキセイインコなどの飼育鳥からヒトへの感染事例が多く確認されています。ヒトでの潜伏期間は、1~2週間で、症状は、発熱(38以上)、咳、頭痛、全身倦怠感、食欲不振、筋肉痛、関節痛などです。口移しでエサを与えるなどの濃厚な接触や、排泄物に含まれている病原体が乾燥してホコリとともに舞い上がったものを吸い込むことで感染します。トリを飼育している家庭では、家族内での同時発症もみられることもあり、高齢者の場合は、肝・脾腫を伴うなど重症化することもあるため注意が必要です。県内で届出があった本疾患の原因と推定されるトリの種類は、ハト、インコ(オカメインコ等)が多く、発症年齢は30歳から70歳まででした。本疾患を疑って医療機関を受診する方は、トリとの接触歴について、お話ししてください。

表 オウム病届出数
青森県(1999-2008年)

年	届出人数
1999	1人
2000	
2001	2人
2002	
2003	
2004	2人
2005	
2006	
2007	2人
2008	